

2026年度 入試問題分析シート

東京大学

前期日程

科目	生物
----	----

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

「分裂酵母の栄養状態に応じた遺伝子発現のしくみ」、「ナス属の棘の遺伝子・植物の葉の毛の有無と適応度」、「キイロショウジョウバエの翅形成・マウスの初期発生」の3大問が出題された。
昨年より問題数は減少したが論述量は増加し、解答しづらい文章選択問題もあり、解答に時間を要したと思われる。昨年出題されたグラフ作図問題と計算問題が出題されなかった。全体の難易度は昨年並みであった。

〈特記事項・トピックス〉

論述問題の制限行数は最大4行、3大問総計で23行で、昨年より増加した(2024年約30行・2025年20行)。
第2問と第3問が、文がⅠ、Ⅱに分かれる形式であった。
第1問は問が8、第2問は問が7、第3問は問が8あり、問題数は減少した。
第1問では、栄養状態において分裂酵母の遺伝子発現が変化するしくみについて問われた。問題文と実験結果の読み取りに時間を要したと思われる。
第2問では、植物の食害からの防御を中心に、毛の形成や適応度について幅広く問われた。
第3問では、キイロショウジョウバエの翅形成とマウスの初期発生を中心に、モルフォゲンなど幅広く問われた。
3大問とも、図表や実験結果をもとに考察するタイプの設問が多く出題された。

〈合格への学習対策〉

東大の場合、問題文を正確に読解し、図表を短時間で正確に分析することが求められるので、長文の実験考察問題の時間を決めて解答する訓練が必要である。また、論述問題で、問われた内容を理解し、適切な内容を述べる練習も積んでおきたい。
「細胞・遺伝子・分子」、「組織・器官・個体(動物・植物)」、「進化・分類」、「生態」といった多様な視点から生物について理解することが必要なので、単に用語を覚えるだけではなく、さまざまな現象のつながりを意識した学習が必要である。
目新しい題材に対して考察する問題や図表から推論する出題が多いので、新聞や科学雑誌などに目を向け、高校生物で見慣れない用語・内容に戸惑うことがないようにしたい。
考察・論述問題への対策としては、駿台文庫発行の「東京大学への理科」、「東大入試詳解25年 生物」などにより、論理の筋道を立てて考察し、自身の手で文章を書く努力をすることが必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問	選択 記述 論述	生物	遺伝子発現 細胞分裂	富栄養条件と飢餓条件で分裂酵母に起こる変化に関わる遺伝子発現のしくみについて、さまざまな観点から問われた。 Gでは、6つの実験結果をもとに、遺伝子 <i>N</i> のmRNA量の制御のしくみについて、富栄養条件と飢餓条件でそれぞれ説明することが求められた。指定された4つの用語を、富栄養条件と飢餓条件の説明で合わせて全て用いることが求められる目新しい形式であった。Hでは、実験7の結果をふまえて、分裂酵母が富栄養条件で増殖するための遺伝子 <i>P</i> の役割を考察することが求められた。遺伝子 <i>P</i> 欠損株と二重欠損株の増殖能が異なる理由については、説明しづらかったと思われる。 (1行×1, 2行×3)	標準
第2問	選択 記述 論述	生物	植物の食害からの 防御 遺伝子発現 適応度	Iでは、ナス属の棘と棘の喪失に関わる遺伝子 <i>L</i> について扱われた。Aは、ナス属の系統樹において、棘の喪失が起きた回数を答える問題であった。Bでは、さまざまなF ₂ 個体の染色体領域の図から、遺伝子 <i>L</i> が含まれる領域を選択することが求められた。 IIでは、ある植物種 <i>M</i> の葉の毛について、毛が形成されるしくみと、毛の有無と適応度について扱われた。Eでは、毛に分化する細胞としない細胞が生じるしくみについて、タンパク質 <i>W</i> , <i>X</i> , <i>Y</i> のふるまいを考察することが求められた。指定	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

				された用語「正のフィードバック」を正しく用いて答えることができたかが解答のポイントとなった。 (2行×1, 3行×1, 4行×1)	
第3問	選択 記述 論述	生物	動物の発生 遺伝子発現	Iでは、キイロショウジョウバエの翅形成について中心に扱われた。Eでは、翅成虫原基で翅形成部位の中心部と辺縁部の細胞増殖速度が同じになる理由を、実験結果と問題文から考察することが求められた。3つの用語が指定されており、取り組みやすかったと思われる。 IIでは、マウスの初期発生について胚の表面に位置する細胞と、胚の内部に位置する細胞についてさまざまな観点から問われた。Fでは、胚の表面の細胞と内部の細胞の数の比率を決めるしくみについて推測することが求められた。細胞分裂の方向を説明できたかが、解答のポイントになった。 (3行×1, 4行×1)	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。